

令和6年 第2回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和6年2月21日(水)

開会 13時30分

閉会 14時35分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(4名)

教 育 長 野 口 弘

教 育 委 員 田 邊 俊 治

〃 木 村 陽 子

〃 櫻 吉 啓 介

4 欠席委員(3名)

教 育 委 員 大 島 淳 光

〃 丸 山 章 子

〃 長 澤 裕 子

事務局

教育次長

担当次長(兼)教育総務課長

教育総務課担当課長(兼)課長補佐

担当次長(兼)学校職員課長

学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐

担当次長(兼)学校指導課長

学校指導課担当課長(兼)課長補佐

市立工業高校事務局長

生涯学習課長

図書館総務課長

(兼)玉川図書館長

(兼)玉川図書館近世史料館長

(兼)玉川図書館城北分館長

教育プラザ総括施設長

(併)こども相談センター所長

学校教育センター所長

上 寺 武 志

堀 場 喜一郎

寺 末 哲 也

地 下 雅 志

外 川 奨

貞 廣 賢 了

小 川 隆 庸

長谷川 智 朗

村 田 昌 人

安 江 貴 子

今 寺 誠

熊 谷 有紀子

5 案 件

議案第2号 令和6年度金沢市教職員研修の基本方針(案)について

(学校教育センター)

非 議案第3号 令和5年度金沢市議会3月定例月議会提出予定案件について

(教育総務課他)

報告第2号 馬場小学校と明成小学校の統合に伴う校章及び式典について(教育総務課)

報告第3号 次期金沢型学校教育モデルの骨子について

(学校指導課)

そ の 他

(1) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議挨拶に続いて、傍聴希望者2名について協議し、傍聴を許可した。次に、会議録署名委員に櫻吉委員を指名した。本日の議題について、野口教育長が議案第3号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第2号、報告第2号、報告第3号について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、3月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第3号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 3月の定例会議の日程：令和6年3月27日（水）13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第2号 令和6年度金沢市教職員研修の基本方針(案)について(学校教育センター)

(説明の概要) 議案書3ページ。教職員研修は令和5年度、157講座を実施し、合計延べ受講者数は7,978人であった。令和4年度と比較して約250人少なくなっているのは、中堅教諭等資質向上研修の対象者が令和4年度は100人を超えており、今年度は67人と例年の人数に戻り、延べ人数が減ったためであり、その点を除いて比較すると実際は微増している。

新設した研修講座について、3に講座数と受講者数をまとめた。特に次世代リーダー育成研修については、受講者が学んだ内容を、学校の実情に応じて校内で講師となり、研修会を実施する仕立てのものであり、校内研修会の活性化の推進につながったと考えている。

議案書2ページ。今年度の実施状況を踏まえ、令和6年度の基本方針についてお諮りする。基本的な考え方としては、今年度末に国が先生方の研修の申し込みから受講、履歴、記録の一括管理を可能とするシステムを構築したので、市は令和6年度よりシステムを導入し、金沢市教職員研修を実施することに加え、新たなシステムにおいては、大学や民間機関、文部科学省等が開発した多様なコンテンツを活用し、先生方が自身の課題に応じて学ぶことが可能となる。それらを踏まえ、基本的な考え方としては、「デジタル技術を活用した研修推進体制を構築し、教職員研修の高度化を進める」と、「教師の個別最適な学び、協働的な学びを実現する研修の充実に取り組む」に変更した。

さらに、2の(1)～(5)の項目を重点として取り組むことを考えている。(1)については、教員育成指標は昨年度新たに策定された指標なので、「新たに策定された」を取った。また(5)については、基本的な考え方にもあったように、文部科学省が教員研修プラットフォームを新設し、最新の教育課題に即したオンラインでの研修動画を取りまとめ提供することから、先生方がいつでもどこでも自分自身の課題に応じて学ぶ環境の整備が推進されることを踏まえ、「教員研修プラットフォーム等を活用した教職員自らの主体的な学びのマネジメントを推進する」ことを新たに加えた。

櫻吉委員

新設した研修講座に、「特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応」に関する研修を提案していただいて大変ありがたいと思います。以前から何度かお話ししていますが、発達障害を含む子どもの受診を希望しても、現時点では医療機関にかかるまでには半年ほどの時間がかかっています。先生方は非常に大変だと思うのですが、学校のことはなるべく学校内で解決していただいて、受診する子どもをある程度

絞ることができないと、薬物療法を含めた医療を必要とする子たちになかなか診療が行き届かない部分があります。非常に大変だとは思いますが、先生方の研修を充実させることをお願いしたいと思っています。

熊谷学校教育センター所長

ありがとうございました。なるべく学校の先生が、先生方の関わりや周囲の友達との関係づくりといったところで学校の理解や環境を整えることで、二次的に難しい状況にある子どもたちが少しでも減るように研修の充実を図っていきたいと思います。今年度は特に、通常学級で読み書きに困難があったり、対人関係が難しい子どもたちに対する通常学級における支援をオンデマンドで強化したところもありますので、さらに先生方と一緒に学びながら、学校内でより良く学べるような環境について取り組んでいきたいと思います。

木村委員

教員研修プラットフォームが新設されたということなのですが、「教職員自らの主体的な学び」と書いてあるので、これは見ようと思えばいつでも見られるものなのでしょうか。

熊谷学校教育センター所長

この春から導入されるのですが、今のところの予定では教職員がIDとパスワードを持つことになり、文部科学省や大学機関の研修動画を見ることができます。先生方が自分の課題に応じて学べる、主にオンライン研修、動画研修を豊富にするということを聞いております。特に、特別支援教育を受ける子どもであったり、外国にルーツがある子どもたちであったり、さまざまな今日的課題に合わせたコンテンツをたくさん用意すると聞いています。

田邊委員

実施状況についてご説明いただきましたが、令和4年度と令和5年度の対比で、実施方法として対面とオンラインの割合は大きく変わってはいないのでしょうか。

熊谷学校教育センター所長

初任者研修のように法定研修で1年間に何回も集まる研修は、横のつながりを多くして集合型で実施しているのですが、そのような要素のものを除くと、昨年度は50%ぐらいがオンライン、オンデマンドだったのに対し、今年度はもう一歩進んで56～57%がオンライン、オンデマンドになっています。

田邊委員

デジタル活用が増えてきているということでしょうか。

熊谷学校教育センター所長

はい。先生方に個々のアンケートや学校ごとのアンケートを取ると、9割を超える先生方がオンデマンドやライブ配信を活用して、学校にいる時間を長くしてほしいという意見で、一部のご意見としては、顔を合わせて、やはり集まる研修もいいという声があります。

田邊委員

ぜひいろいろな手段を活用して取り組めるといいなと思います。新設された研修講座の二つ目に次世代リーダー育成研修講座がありますが、対象者や希望の出し方、それからたくさんの先生が希望されても受けられるのかどうかなど、そのあたりの育成研修講座の実情について教えてください。

熊谷学校教育センター所長

次世代リーダー育成研修の新設の前になるのですが、平成29年から2年間で30～40人を校長推薦で募集した、専門性を高めて学校

を経営してくれる人材を育成する講座が6年終わりましたので、それを次世代リーダー育成研修講座としてリニューアルした形になっています。ですので、2年間ではなく1年間で4講座を学んでいただく仕立てになっており、各自が申し込むというよりは校長先生が学校の中核となって経営していける人材を推薦する方法を取っています。年齢についても、リーダー層で若手が増えてきているので、少し広めに捉えて30代から40代前半ぐらいの間で、校長先生に推薦していただいた約30名という形になっています。

田邊委員

教員の現状をみると、世代構成が気になるころではあります。次世代リーダーをコツコツと育成する必要があると思いますので、よろしくをお願いします。

○ 報告第2号 馬場小学校と明成小学校の統合に伴う校章及び式典について（教育総務課）

（説明の概要）議案書26ページ。本年4月に統合する馬場小学校と明成小学校については、統合小学校の開校に向けて協議・検討を行う統合協議会において、校章を新たにし、統合の象徴とすることについて合意が得られたことから、校章を新たに制作し、校旗などの作成に取りかかっている。併せて、式典の準備を進めている。

校章は、制作を金沢美術工芸大学に委託し、同大卒業生のデザイナー、西田英一氏により制作された。デザインとコンセプトは資料に記載のとおりである。校章は新しく統合する馬場小学校、前身である瓢箪町小学校、此花町小学校の三つの頭文字「B・H・K」で漢字の「明」を表している。

馬場小学校の開校式は3月23日（土）午前10時から、馬場小学校体育館において、多くの地域住民が参加する中、地元の実行委員会によって開催される予定となっている。式典のご案内は委員各位へ既に郵送しているのでご確認いただきたい。

また馬場小学校・明成小学校統合記念式は4月8日（月）、入学式に先立ち午前8時半から、明成小学校体育館において、金沢市主催で執り行い、新しい校旗の授与を行う予定としている。式典のご案内については、準備が整い次第、改めて委員各位にお知らせしたい。

いずれの式典も年度替わりの大変お忙しい時期での開催となるが、ご都合のつく限りご出席いただきたい。

田邊委員

校章は斬新なデザインだと思いますが、色使いについては何か理由があるのですか。

堀場教育総務課長

デザイナーからお聞きしたコンセプトは、資料に記載のものが全てですが、色については統合校となる明成小学校のスクールカラーが緑色ですので、それを継承したものと聞いております。

田邊委員

きっと目立ちますよね。

木村委員

明成の「明」の字になっていてすごいなと思いました。みんなの印象に残る校章になったのではないかと思います。

堀場教育総務課長

ご感想を頂き、ありがとうございます。アルファベットの頭文字を重ねたら漢字になるというのは、私も最初見たときは驚いたのですが、3校の統合の象徴という意味では非常に良くなったのではないかと思いますし、先ほど田邊委員から色味の話がありましたが、グラデーションになっているのも3校の調和を表現していると個人的には思っています。すごく柔らかい感じで、アルファベットの角も取れていて、3校の角が立たないよう

な思いも伝わってくるものになっております。

○ 報告第3号 次期金沢型学校教育モデルの骨子について（学校指導課）

（説明の概要）議案書29ページ。次期金沢型学校教育モデルについて、3回の構築会議を重ねて検討された内容を踏まえ、大きく3点報告する。

1点目に、次期金沢型学校教育モデルの骨子の基本的な考え方についてである。次期金沢型学校教育モデルでは、新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、新しい価値や最適解を見いだす創造力を育む。

2点目に、次期金沢型学校教育モデルの内容として（1）に記載した、「創造力を育むための基盤となる3つの力」について説明する。

一つ目の力は、デジタル力である。発展的プログラミング学習や先端技術を体験する学習など、デジタルに特化した学習に加え、重点的に情報活用能力を育成するデジタル（D）タイムを各教科の教育課程に位置付けることで、主体的にデジタル社会に関わるデジタル力を育成する。

二つ目の力は、読解力である。知・徳・体の調和の取れた、特色ある教育課程を編成することに加え、重点的に読解力を育成する読解（R）タイムを各教科の教育課程に位置付けることで、学び続けるための土台となる読解力を育成する。

三つ目の力は、コミュニケーション力である。金沢ふるさと学習と豊かな体験活動を通して、感性を磨くことに加え、重点的にコミュニケーション力を育成するコミュニケーション（C）タイムを各教科の教育課程に位置付けることで、他者を尊重し、自分の意思を伝えるコミュニケーション力を育成する。

3点目に、（2）の創造力を育むための三つの要素についてご説明する。

一つ目に、「何を学ぶか」ということで、金沢ベーシックカリキュラムを改訂する。具体的には現行の金沢ベーシックカリキュラムを、教科のねらいはもちろんだが、創造力を育むための基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の視点で教育課程を見直し、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にする。

二つ目に、「どのように学ぶか」ということで、自ら問い、自ら行う金沢探究スタイルを策定する。学習の基本と指導の基本を示した現行の金沢型学習スタイルと、デジタル力・読解力・コミュニケーション力の三つの力を基盤に、これまで本市が大事にしてきた、児童生徒が主役となる主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、創造力を育成することを目的としている。

三つ目に、「何ができるようになったか」ということで、金沢リフレクションを策定する。各学校ではこれまでも学びの振り返りを大事にしているが、新モデルにおいても、児童生徒自身が何ができるようになったのかをデジタル力・読解力・コミュニケーション力の視点で振り返り、自分自身の学びの成長を自覚することが創造力を育むために必要であると考えている。

議案書30ページは、次期金沢型学校教育モデルの説明を全体構想図として示した資料である。下の緑色で示した金沢ベーシックカリキュラム、中ほどの水色で示した金沢探究スタイル、そして上段の茶色で示した金沢リフレクションの三つの要素から、新しい価値や最適解を見いだす創造力を育む図になっている。また、金沢独自の小中一貫教育は、いわゆる施設一体型の小中一貫教育ではなく、これまでと同様、小中連携を大切に、9年間を見通した連続性のある教育活動を展開し、児童生徒の学びと育ちをつないでいきたいと思う。

今後は、来年度の5月に予定している第4回構築会議で答申案をまとめることとなっている。

櫻吉委員

カタカナの言葉が非常に多く出てきていて、どれもなじみのあるカタカナ言葉なのですが、「リフレクション」という言葉が自分にとってはいまひとつなじみが薄いのです。ビジネス用語としては出てきているように思うのですが、何か思いがあってこの言葉を採用したのでしょうか。

貞廣学校指導課長	構築会議において、子どもたちが学びを自覚できるような振り返りが大切ではないかという意見等が構築委員からも出されました。学校でも、何ができるようになったかという振り返りを大事にしており、今回のモデルでは「リフレクション」という言葉で明確にしました。
櫻吉委員	デジタル力・読解力・コミュニケーション力に関しては異論はないのですが、この中で書く力が抜けているような印象があるのです。例えば、英語では4技能があります。リスニング・スピーキングはコミュニケーション力だと思いますし、リーディングは読解力です。今後デジタル化していったら、ライティングはあまり必要ないという時代になるのかもしれませんが、書く力、表現する力は結構大切なのではないかと考えていて、ここがちょっと弱いような気がしているのです。
貞廣学校指導課長	ベーシックカリキュラムの中で、読解力の育成に向けて読む・書く・話すことについては明確にしていきたいと思っています。
木村委員	「学びの成長を自覚する金沢リフレクション」とか「自ら問い、自ら行う金沢探究スタイル」というふうに、頭に付いているフレーズがないと非常に分かりにくいのではないかと思うので、これは絶対に外さないで載せてほしいと思いました。
貞廣学校指導課長	学校に伝わるようにしていきたいと思っています。構想図の資料を今回の会議で出させていただいたのですが、それぞれ金沢ベーシックカリキュラム、金沢探究スタイル、金沢リフレクションについてももう少し具体的な資料を作っておりますので、また次回、固まり次第、お伝えしたいと思っています。
野口教育長	木村委員がおっしゃったことは非常に大事なことだと思います。ベーシックカリキュラムや探究スタイルやリフレクションの前の言葉について触れられましたが、真ん中あたりにある「デジタルで」の下に「いつでも、どこでも、だれとでも学ぶ」という形で解説もきちんとされ、分かりやすくしているのが今回のモデルの特徴だと思います。上にある「デジタル力」「読解力」「コミュニケーション力」の上にも、小さな字ですが説明が添えてありますので、こうしたところも大事にしながら進めていければと思います。
田邊委員	趣旨を見ると、「新しい時代が求める自学・共創の学びを通して」ということで、自分で学び、共創して学ぶということが大きなメッセージになっていると思うのですが、この図を見ると、「自ら問い、自ら行う」というふうに、「自ら」というところがかなり強調されているような気がするのです。協働して学ぶということが文言としてもどこかにあった方が趣旨に沿うのではないかと思います。こうした観点で、自分でデジタル力を付けたり、本物に触れて学んだりするのはもちろんですが、共に学ぶということも文言としてももう少し打ち出した方がいいように思いました。 それから3層構造で、目指すものが一番上のピンク色の創造力を育むところだと思うのですが、ベーシックカリキュラム、探究スタイル、リフレクションが3層構造になっているので、ピンク色の部分はその上に出てくるというイメージで受け取ったのです。でも、これだとリフレクションの中に含まれています。もちろん全体を包括しているとは思いますが、見え方として、到達点が創造力であるとするならば枠の中から上に出して示した方がいいのではないかという感想を持ちました。このあたりをまた検討していただければと思います。

貞廣学校指導課長	次回の構築会議で精査していきたいと思います。
野口教育長	貴重なご意見だと思います。恐らく共創のところは、探究スタイルの真ん中の部分に表れてくると思いますが、少し事務局で精査していただき、今度の最終回の構築会議に臨んでいただきたいと思います。
田邊委員	自己肯定感が課題であるとよくいわれます。正しいことを追求することはもちろん大事だと思うのですが、失敗を恐れなくて、間違ってもいいから受け止めてくれる仲間の中でぶつけ合って、失敗を恐れず思いを表明したり提案したりするということが存分にできるような学習環境であってほしいと思います。そうした環境をぜひ追及していくことも、学校での学びの大切なことの中に含まれると思います。自己肯定感を育むためにこそ、失敗を恐れなくて取り組める環境が大事だと思いますので、表現の仕方ともかく、そのようなメッセージも届くような建付けになるといいと思います。
貞廣学校指導課長	この構想図には書かれていないのですが、創造力を身に付けた子どもの姿として、粘り強く挑戦する子どもを位置付けていますので、また次回ご説明したいと思います。
野口教育長	5月に最終回の構築会議があります。それまで、若干時間はございますから、またご意見等ありましたら頂きたいと思います。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名

教 育 委 員 _____ 署 名

(櫻吉委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第 3 号 令和 5 年度金沢市議会 3 月定例会議会提出予定案件について

審議結果についても非公開

以 上